

# 第27回 神無一族の氾濫

担当 神無七郎

今回の「氾濫」はPWC特集です。PWCはチェスプロプレムのルールのひと(Platzwechsellinjeの略で、和訳すれば「交換キルケ」となるでしょう)か。耳慣れない方も多いと思いますが、詰バラでも1997年11月に、上田吉一氏がこのルールを使った作を発表しています。この時は、日本の詰将棋にこのルールを適用したときの細則が決まっていまなかったですが、2005年9月にク口氏が提案した方式が定着し、多くの作品が作られるようになりました。ここでそのルールを説明します。

〔PWCルールの説明〕  
(1)取られた駒は(2)の例外を除き)取った駒が元あった場所に復元する。  
(2)二歩及び行き所の無い駒の禁に触れ

る場合は、復元せずに持駒になる。(3)成駒は成ったままで復元する。(4)成れる位置に復元した場合でも、成不成の選択は行えない。ルールの(2)と(4)は互いに関連していません。本来PWCは駒の増減が発生しないルールなのですが、この(2)と(4)の設定により、この「日本式PWC」では桂香歩の増減が生じることになりました。スペースの関係で例題は省略しますが、ネット上では多くのPWC作品が発表されていますので、Webの閲覧ができる方は「PWCばか詰作品展」(<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/pwc.html>)を)覧になるようお勧めします。

なお、今回はゲストとしてたくぼん氏と北村太路氏に参加して戴きましたお2人とも精力的にPWC作品を発表されており、今回の作品でもその実力の一端を窺えると思います。(他のルールの説明とコメント)

【スタイルメイト】王手は掛かっているが、合法手のない状態にする。  
【成禁】詰手順中、駒を成る手があったらならない。

【取禁】詰手順中、駒を取る手があったらならない。詰みの概念については通常通り。(駒を取れないことを前提とした詰みではない。)

【千日手】初形の局面に戻す。

①は通常のばか詰です。他のルールに馴染めない方はこれだけでもどうぞ。⑤は受方の持駒に制限があります。

⑥は多分今回の最難問。76龍がなければ608手ですが、どうやって手数を縮めるのでしょうか？

## 懸賞

▼締切12月末日。呈賞5名。解答は編集部または左記のアドレスへ  
E-mail: [janacek789@ybb.ne.jp](mailto:janacek789@ybb.ne.jp)

▼評価点不要。短評歓迎。1題の正解でも呈賞の対象となるので、解けた分だけでも解答を送って下さい。

④ **たくぼん**  
PWC成禁ばか詰 33手

9	8	7	6	5	4	3	2	1
				変				

持駒 銀

① **神無三郎 『狐狩』**  
ばか詰 91手

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 桂歩4

⑤ **神無七郎**  
PWC取禁ばか詰 77手

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 桂香香香

② **神無太郎**  
PWCばか自殺スタイルメイト 12手

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 桂香香香

⑥ **北村太路**  
PWCばか千日手 498手

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 なし

③ **たくぼん**  
PWCばか詰 13手

9	8	7	6	5	4	3	2	1

持駒 なし